



德川家
兵學校掟書

洋学文庫

文庫 8

C 257

紙筆料二百銅



覽

此度於沼津表兵學校御所建差成以來士官之面々悉
入學修業之命法科之達於校之器幹之備以上多夫々
軍職之任以御趣意之尤万各得負其志願之而々當
之學校御所提書之通望之与修業了後之事

辰十二月

陸軍總括

徳川家兵學校規書



生徒之事

第一条 毎年十月朔日生徒入門之儀許以男志願之者毎

七月晦日限學校頭取之可申入事

第二条 志願十月迄以て修業年限之始之儀一以事

第三条 右入門之儀之物々陸軍少校之欠負并得業生仕進之

多寡之率一陸軍総括之毎年五月中布告之可也

志願之面之可申出以事

才業

入学は免に成以生徒を左に通

第一 具父の徳川系の家名に列に在連する事

第二 年齢十四歳以上十八歳に限りし事

第三 小学修業上達の上第一試に滞りし事

第四 陸軍医師既成の身体全健に該状を以し事

但該状中自然痘又と種痘とを既成と認めし事

九
才業

才業

陸軍支配に在り他局属は悉陸軍方出身と認むる事

兼其支配既成の上陸軍総括に在りし事



支配に添書を以て學校既成と認むる事

才業

入学は許しに在り其親掛に在り親名目又者主を拾六才

以上は其自身名目又者主を拾五才以下は其親掛後見

人之名目を預出に在り其親掛に在り人以外は其親支配に

添書に添書學校既成の上先第四條第一第二第三第四條

有るに在り其親掛に在り小學吟味に在りし事

才業

小學の吟味に在り其業條令中を以て規則に準一甲乙を以

其順次に在り其業條令中を以て規則に準一甲乙を以

其業條令中を以て規則に準一甲乙を以

才八条 入学の事は其の如く科を配る如く科を築造如く校
之科を二科之内何れも其の志願に任せ一二三之標目を
預書録白に認了す可なり右志願之科布告四之負取満
負ふ事其の如く二二之志願之科内之轉入は其の如く又
資業生年限中に投事故は其の如く新易之科振替
を以て免ふ事其の如く

才九条 給与生徒に入学者其の其学科に於て二科隊中にて
其の如く兩科以下法程以下其の如く學術演習等其の如く
勿論平素身持起程出入り其の如く圖に任す可なり

才十条 生徒に及て資業生本業生に二等に分ち以事

才十一條 資業生修業年限を四年と看す可なり

才十二條 右修業四年を以て第一試を以て合格と看す免許状を發
本業生に給ふ可なり

才十三條 右修業三年を以て第二試を以て合格と看す本業生に
免許状を發す可なり

才十四條 得業生に其の如く其の如く其の如く免許状を發す其
支配屬は陸軍士友欠負方其の如く年月に依りて其
撥入其の如く

才十條 資業生年限中十分之三以下級者初及志願之科より
他科に移る者預に志す學校既取其掛取締着と熟議の上
陸軍總括より三層支も無しかりて許す

才十條 預日人口より第四條合格との第四條より續て漸く進
當學校より修業を成りしと才一試合格の後資業生と才
第二試合格の後本業生と才第三試合格の後得業生
才十條 俄志願の者より才一試業文者預に六月月中
布告面より多數指し方より陸軍總括并學校既取
熟議の上試業を許合格の者より等級を許す

他七試業より第三試より第一試より順次に五試止列位規
則あり通考例より精考を成り

才十條 第四條より第四回又湖中より夫の才能に不長
他日より人より官負より補志願の者も其志願の趣旨
中三陸軍總括學校既取熟議の上生徒に志すは其志願
才十條 元來本業生より本業情願を志し他志願より資業生
と本業修業後志願の者も志願の趣旨細中三第一試を
各學校員外生より名義より資業生より本業に依りて成り
才十條 各學校員外生より小学試業より外第四條合格より味及

月之修業料と銀控を各居出し了す

但学校内修業料を徴せしむる事其列にあり

才廿条 負外生事 卒業之修業料を第二試合格者卒業生之指

交情に及ぶ事 第三条合格者 第四条手續を済し者 卒業

修業料を得業生仕進に明き事 其本負之元金を返す事

才廿条 第四条合格者 其身國刑を犯し者 以て免す事

才廿条 其父戦死報國之功あり者 第四条合格者 賞を授け

陸軍總括學校既取熟識之上入學を許す事

教授方之事

才廿条 各學校既取之撰任を陸軍總括并法局之軍議掛に議

之上其任堪し仁を撰擧しし事 上は命じし事

才廿条 學校既取之撰任之事 且論中兵律に精通し和洋

西洋古今之を和漢通し其人望あり以て之を撰任す

事 其任者 且論中兵律に精通し和洋

才廿条 學校頭取之職を左に通す

第一 沿革表と各學校を以てし事

第二 此領内之學校附屬之小學校を管轄せしむ

第三 兵學校小學校を管轄せしむ及授了後學術課程之一定改革を以し

第四 第一等以下法教授方并法小學校之教授方之擔任職務を以し

第五 其他學校附屬外法司化學方画圖方書籍方筆記方調馬方等を管轄せしむ

第六 法生徒童生及貧學生卒業生并貧外生等其身分支那外任を職務を以し

第七 總之學校掛之吏級小遣等之補擢出入并出入商人之出入を以し

第八 各學校之係法教授方面之給料并支其外法雜費之由細を陸軍總括を以し之取扱を以し

第九 各學校之屬書文庫并器械馬匹等其不獲を以し

第十 地方測量局等之不獲を以し

第十一 各教授方擢擧之候學校既方主之陸軍總括并掛軍議掛を以し熟識之上二等教授方或既方既方内或他局より擢擧し之を以し

以國法之勿論多學校以規則之遵奉仕格之
速把仕有友忠勤之教以存念生進以依之
志願之度百此後以分屬並了亦以心之

年 月 日

頭取宛

何之惟平

者以級之永年在職仕及

者以級之歷級仕進仕及

又他之類之時本書別紙之志願之趣意

中教業 負外法月之學校既第一等之級授方陸軍總括并軍儀掛
勳儀之市之任命

中教業 二等之等之級授方自身修業程度志願之

之除唯第一等教授方或之陸軍中校之修業

之修業之修業之修業之修業之修業

之修業之修業之修業之修業

中教業 進之陸軍本制之進一等教授方亦砲築之科之答者

各其生徒之修業之修業之修業之修業

三等教授方肝前心得之一等及二等差級之修業生徒

教授方在議之正... 業素土用休業中... 願內... 旅... 苦...

學課之事

高松系 以業生之學課之...

外國語學 華佛(內)科

究理 天文

地理 歷史 } 大畧

數學

書史講論

圖画 調馬

武統砲 操練

書史講論	博物新編 地理全誌 瀛環志畧 孫子	皇朝史畧 日本外史	網鑑易知錄
英佛語の内 一科	會話 文典	萬國地理 窮理天文 概畧	萬國史 經濟說 大畧
數學	點	開平 開立方	二次方程式マデ
	幾何	平面式	八線正斜三角
			立体
器械学	本源ノミ		
乘馬			
銃砲打方	銃ノ組立的打等打交セ		
操練	生兵小隊并ニ大砲ハセキチー運轉位マデ		
	實地測量 フランセット 基準タリト 測器ヲタテ目ニテ遠近ヲ測リ 函ニ写ス事又水平術の大畧 フロゼクレオンの学		

本業生ノ學深キ者多ク自己の望ニ任セ預クニ通リ在リ三科
ノ内ニ科ヲ在リ門ノ修業ニ在リ

歩兵科
砲兵科
築造科

本業生 歩兵科 砲兵科 築造科 科目自ラ在リ通リ

本草丸素 砲を校と科を通す

操練	軍律	化学	器械学	築造	戦法	砲術	數學
			大畧	野堡并其攻守	兵家諸規則	火工	高等點竈 高等幾何
				橋梁	兵法	各種大砲彈丸の 製作并用法	微分 積分
				城塹并其攻守	兵畧	小銃并運輸諸具の 製作理解并用法	静学 流体静学 動学

操練	軍律	砲術	築造	戦法
生兵ヨリ大隊マデ之業前			野堡	用兵諸規則 陣中諸規則 歩兵操練書
		諸種大砲及彈丸	其攻守 橋梁 大畧	兵法
		其用法得失射擲之 名目彈道ノ大概	城塹并其攻守 大畧	兵畧

附 法種小銃之紐三彈丸其色之製造并其
利害得失之篤と心得了其在る

第五十條 築造科校科目左の通り

軍律	化学	器械学	砲術	戦法	水理学	築造学	數學
				兵家諸規則	道路	野堡地雷火	高等點竄 高等幾何
				兵法	橋水道	橋梁	微分 積分
				兵略	家屋製造	永久城塼	静学 流体静学 動学 流体動学
					輓道 造船学略	傳信機 水雷火	

才五十五條 右の通り日課あるに修業の成り

他右日課と四季昼夜の長短を別々の定例を以て示すべし

才五十六條 三兵舎併し陣中法作業實地研究を爲す毎季春秋於野外大演練を爲すべし

但右日課地方度敷を以て總て各學校に於て定む事

才五十七條 本業生學期三年の内に後を二年を野外を實地研究
完す

才五十八條 編者病卒等より文業後を以て考へ全收の上休日或は平日

課業、除唯自分教員と教授才に就き右段より之を償ひ私
うけり事

試業之事

才業素 毎年八月中法學期年々試業年々々々試業方

いひり

才業素 入學と許し者其以前者多學校於て小學々々試業之
右吟味之々素左之通

甲素積 句後考訓之方速多々筆息を個々に海際

朗誦之方いを上級之段いなり

乙子孫 右吟味方分望以公私文章速々出来文章

貫徹し申し以上を上級と改めし事
主文意を貫徹し乙次列し以上を甲乙
優劣を撰し時を文意貫徹せし事
上級列し

丙 算術

吟味方を定し其難題を速く且速に
算術法し

丁 地理

小學の學の内吟味方を尋問改し
之源流返答法以上を上級と改し

才氣素 乙丙甲乙丙丁在右揃 試験業を深しを甲科と

改訂し

才氣素 甲科の内優劣を十八史略國史略の内吟味方を別題定し

才氣素 以て講釋し其手際を以て席唯を定し

才氣素 以て又講釋し同等の算術を別題定し

之者否を固て席唯を定し

才氣素 必し試業を能く度しを毎年七月晦日限り小学校監

可中入る

才氣素 小學試業を尋問席唯の吟味方一箇を一考 教授方人

教授方人二人三考を教授方人若く三人

但毎年例月之外試業を許さる

本業 次員業生初年より第二試之結果試業合格との本業
生をさる

本業生 学年を三ヶ年満月を除き三拾六ヶ月以上の時を
第三試之結果をさる

本業 本期年より第三試之結果合格との者も年月を満
ふ拍試業を許さる

但第六拾七条同様

本業 第一試之結果合格との者も十一月以後再試をさる

許さる

本業 第二試之結果初及後をさる十一月以後再試を許

さる其節又落第より十一月以後又三試をさる

を許さる

本業 第三試より第一試より十一月以後再試を許さる

本業 第二第三試を同時試業合格の者も試業を甲乙を以て

席順を定む

本業 本業生或年月に試業を満出格より以上を監査隊員

團以下級を命ずる

休業之事

毎日曜日及法學休日之事

其他

五節句

八朔

四月十七日

主上御誕生日九月五日

當君氏誕生日



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '九月五日' and '當君氏誕生日'.

十二月廿一日から正月七日まで

夏土用中

七月十二日と翌十六日まで

八月試業中

其河

毎日晴日少く雨日多し

秋分

生徒病業并忌服之事

本學業 凡病業多休業の事一以去四日以上の醫治の添状を以て
常人より在病引込つたり

本學業 二十日以上の病業之難し者々全休後醫家の吟味を以て
之を身体全健に復す候りたり

本學業 父兄者病苦多課税を欠き以時々大病の例に準じたり
但病業輕小者親類親友より醫治の費を以て復す候りたり

本學業 忌服を以て日節場之例に準じたり

生徒罰則之事

其科条 盜竊法犯偽の國法之越度も國之典刑に於て可論なり

附一、小度至刑を犯し者も生徒除名を求むるなり

其科条 身持不重りのも綴々試業於てと冠しりとも其科条方流
議と乙次列しり

其科条 遊蕩放埒錮を不修し或は之のそとに於て差を堪へざるを以て

法學を授かるに議と乙次學校放逐しり

其科条 得業生除目之苛者自停年之順序に依りて濫擢す

法の形以て時々遷りて其業生兵局裁判所是を
訴ふの權を有する事

右八拾四ヶ條當學校開校後十一月毎再議して
斟酌改訂する事

辰十二月奉

命
兵學校取
西 周助撥定

教授方法所
揭示

- 一 教師之任 膺る者之特 授業之於之 諄々訓導
 以て之 倦りしを以て之 此子之如く 以て 總て生徒の
 於て之之所 ありしを 一動一弛 意を以て 温厚恭
 肅を以て 生徒を以て 師を愛し 業を樂しむ
 心掛性急暴怒之振舞 押付て 万般所以 諄々
 有て 問敷る事
- 一 教師等級順之序 於て 敬禮 却て 辱しむ 勿論 固

等々者長幼之序乱之... 各専門之學
 科... 互に助け補執之念... 万歳
 一 授業之時刻を早く出晚く... 言妄語を
 禁免書籍器械之亂雜を防ぎ... 執事更番
 等々... 事...

授業所
 指示

軍中... 法令を厳しく... 分業...
 ... 生徒... 成業... 上校...
 ... 授業... 軍中...
 ... 教沙... 仰... 其命...
 ... 物... 他... 儀...
 ... 先軍... 後...
 ... 自平... 業... 勵...

勿論禮義廉恥を宗として士道を大本とす已
美名を後世に遺す
御家の光輝を四方に揚ぐ松心掛専一之事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

松心掛
御家光

